である。 kamuy-utka 神の・瀬)の位置で、 で、切り立った山腹や崖などに沿 で紹介した「名瀬棧橋」に当たる橋 橋と意識していないであろう。 るが、車で通過する人は、ほとんど 安全に通行するために作った橋であ をまたいだ橋ではなく、崖の部分を 撮影した の所が、前回紹介したカムイウッカ 形図(一五○%拡大)で、 地図の★印 うに、波打って瀬(ウッカutka)と 岩盤が川幅一杯に広がり、写真のよ のように、大橋といっても、 なっている。 写真は、 掲 路肩に神居古潭大橋の標識があ ・載図は現在の二万五千分一の地 棧橋は、

元来は

棧道と同じ 断 「神居古潭大橋」で、 ★印の地点から、 望遠で χN の『北海道仮製五万分一図』では、 出し設けた橋のこと。神居古潭大橋 田方正の地名解を再掲すると、「カム ために棧橋があり、明治三十年製版 は近代工法で作られた棧橋である イウッカ (kamui –utka 神瀬) 「名瀬棧橋」の名称であったのであ 明治時代も、 木材や綱などで棚のように張り 治二十三年にここを調査した永 神納橋から神居古潭まで中 ここを安全に通る 淵する処」と記した。ところが、 川の中央に大岩あり。水激して奔 地名研究者のために、是非伝えた 昭和三十五年に、知里真志保は、 名な激流という意味である。 を・もつ・激湍)前記カムイウッ の「レーコロプイフ」を、 誤って、「レーコロプイラ」とし 明治三十年の『北海道仮製五万分 力と同じものか。」と記述した。 いことは、明治三十年、三十一年 ロブイラ (re-kor-puira名 一上川郡アイヌ語地名解」で、 図』では、このカムイウッカを 右の事実から、今後のアイヌ語 神居古潭大橋 カムイウッカ と恐れられた有名な難所であった。 代の天塩川運漕時代も、「智東の滝 の旧・智東駅の下流にあり、明治時 称がカムイコタンであった。名寄市 険な所であるのが特徴である。 のカムイウッカは、★印の地点から が共通しているのであった。 流が激突する危険な場所で、この点 天塩川のカムイウッカは、左岸に激 れた所も、カムイウッカと言い、 激流が右岸に叩きつけて、非常に危 節・水量によっても異なるが、 獺(ウッカ utka)はあったが、 撮影時は、 を下ったが、今年の六月二日の写真 用していることが明白であるという を参照しており、知里真志保の前記 の永田方正の『北海道蝦夷語地名解 少なくとも上川郡は、明治二十四年 時の激流の状況は感じなかった。 一度、四人乗りのゴムボートでこと ことである。 さて、昭和五十二年と六十三年の 実は、天塩川の最大の難所と言わ ※毎月第1週号に掲載します 『北海道仮製五万分一図』 写真のように、 右の地図を資料として使 (アイヌ語地名研究会幹事) 昔どおり